

令和4年度東京都立小金井工業高等学校 学校経営報告

東京都立小金井工業高等学校

校長 森田 常次

1 令和4年度学校経営計画の実施結果(概要)

就職や進学などの生徒の進路実現に向けた「基礎学力の向上」及び「キャリア教育の充実」に取り組むとともに、本校志望者数の増加にむけた「学校説明会、中学校訪問、体験入学、学校HP等の広報活動の充実」を図った。

「基礎学力の向上」については、ユニバーサルデザイン（以下、UDと表記）の視点を取り入れた学習指導や補習・補講・講習の実施などの取組を実施したが、進級率（全体）90.9%、1学年進級率80.0%と進級率（全体）95%以上、1学年進級率85%以上の目標を達成することができなかった。「キャリア教育の充実」については、4年生16名全員の進路（就職11名、進学5名）が決定し、進路決定率95%以上という目標が達成できた。休日の学校説明会の実施や学校ホームページのリニューアルなどに取り組んだが、志願者の増加にまでは至らなかった。

次年度も引く続き、基礎的・基本的な学力の定着及び幅広い教養と進級率の向上と進路実現を目指すとともに、キャリア教育の充実を図っていく。

2 今年度の取組と自己評価

本年度の活動目標と主要方策別に振り返りを行うとともに、次年度取り組むべき課題を整理した。

(1)「教育活動の目標と方策」に対する結果と次年度への反映

活動目標	本年度（令和4年度）の主な方策	取組結果(○：達成、△：一部達成、×：未達成)	次年度への取組課題
学習指導の充実	①授業時数の確保とともに、基礎学力の定着 ・授業時数の確保 ・teams等のICT機器を活用した教科指導上の工夫	【△】 ・授業時数を把握し、時間割変更を行うことで各科目の授業時数を確保できた。 ・ICT機器した学習指導の工夫により、基礎学力定着を図る取組は十分でなかった。	・引き続き、授業時数の管理することが必要である。 ・効果的なICT機器の活用の工夫が必要である。
	②学習指導上、配慮を必要とする生徒への具体的支援 ・補習や講習の実施、学習評価上の工夫 ・UDに基づく学習指導の推進 ・通級による指導（自立活動）の充実	【○】 ・個々の到達度に応じた補習や補講を実施することで、学習習慣の定着を図ることができた。 ・生徒個々の特性を尊重した学習指導の工夫ができた。	・補習を更に充実させ、学習意欲を高める指導の工夫が必要である。 ・特異な特性をもった生徒理解を深める研修が必要である。
	③専門高校としての教育課程の確実な実施と充実 ・観点別学習状況の評価と指導の一体化を図る。	【△】 ・専門高校としての教育課程を確実に実施できたが、観点別学習状況の評価が指導に生かされる状況には十分でなかった。	・観点別学習状況の評価の在り方と指導に生かすための考え方についての研修が必要である。
	④授業力の向上に向けた取組 ・教職員相互の授業参観等を促進、授業力の向上	【△】 ・教職員相互の授業参観はできなかったが、生徒による授業評価を改めて授業改善に生かす取組を実施することができた。	・授業の相互参観や生徒による授業評価等を更に活用して、授業力向上を図る必要がある。
	⑤授業担当、担任、保護者の連携による指導の充実 ・各授業の出欠状況の確実な把握	【○】 ・生徒の出欠状況に応じて保護者との連絡を密にとるように努力している。	・年度当初に保護者との連絡体制の構築を行い、教職員間の連携強化を図る必要がある。
	⑥専門高校の特色を活かした資格取得の実施 ・資格取得を目指した講習の実施	【○】 ・教科、部活動を中心に、取得の指導が実施できた。	・継続した取組を行うことでさらに資格取得を充実させる必要がある。
進路指導の充実	①進路決定に役立つ企業（学校）見学会や就業体験の実施	【○】 ・企業見学会やインターシップを実施することができ、職業観や就労観を高めることができた。	・今年度の取組を更に充実させていく必要がある。
	②進路決定率向上に向けた進路情報の効果的な提供 ・外部専門機関や企業との連携による説明会の実施 ・求人票等の情報を生徒に提供する上での諸改善	【○】 ・企業等との連携による説明会を実施し、進路決定率100%を達成した。 ・ネットワークを活用した求人票情報提供システムを導入することができた。	・説明会の充実と求人票情報提供システムの円滑な活用の仕組みの構築が必要である。

活動目標	本年度（令和4年度）の主な方策	取組結果（○：達成、△：一部達成、×：未達成）	次年度への取組課題
進路指導の充実	③特別な支援を必要とする生徒の進路実現に向けた専門機関等との連携促進	【○】 ・労働法規や社会のルール、進学にかかる学費、就職に必要な資格、ガイダンス実施。	・規則正しい高校生活を送り、希望進路が実現するようバックアップする取組が必要である。
	④進路先開拓活動の実施 （新規、卒業生就職先訪問など）	【○】 ・12社の企業訪問ができた。	・卒業生就職先を訪問し、更なる連携につなげる。
	⑤資格保有率の向上・取得状況の把握	【○】 ・ジェニアミスター顕彰をはじめ多くの資格に挑戦し、取得する生徒を輩出することができた。	・継続することにより、生徒の意識を更に高める取組をする必要がある。
生活指導の充実	①授業規律と規範意識確保のための全職員一丸になっての活動 （情報共有や全職員の一貫した指導）	【○】 ・授業規律や規範意識の醸成に関する指導について共通理解を図り、取り組むことができた。	・継続し、情報共有を更に充実させる必要がある。
	②校門指導、健康観察の実施	【○】 ・登校時の健康観察、teamsによる報告等を的確に実施し、コロナ感染防止を徹底した。	・健康観察だけでなく、生徒の状態を確実に把握する必要がある。
	③食堂におけるルールの定着と円滑な運用	【○】 ・コロナ禍でのルールに沿った指導を実施し、円滑に運用できた。	・食育とともに、喫食ルールの徹底を継続する必要がある。
	④「あいさつ」指導の充実 （職員率先による校風づくり）	【○】 ・全職員で取り組むことができた。	・引き続き職員率先による挨拶指導を継続する必要がある。
	⑤交通安全指導の充実 ・自転車の運転に関わる安全指導の実施	【○】 ・指導の結果、大きな自転車事故なく生徒の安全意識を向上させることができた。	・ルール徹底の強化を意識した指導の工夫が必要である。
	⑥いじめに対する総合対策の実施 ・学校いじめ対策委員会を中心とした指導体制の確立	【○】 ・いじめのない学校づくりを目指し、研修を実施するなどして意識の向上と体制確立ができた。	・生徒の意識を高める取組を更に充実させる必要がある。
	⑦自殺対策に資する教育の推進 ・自殺総合対策大綱に基づく指導の実施	【○】 ・日頃の生徒観察やアンケート調査を通して、指導を行うことができた。	・早期発見、未然防止の取組を更に充実させる必要がある。
	⑧防災教育の推進 ・防災ノートやマイタイムラインの活用、消防講話の実施	【△】 ・避難訓練等を適切に実施したが、マイタイムライン等の活用には至らなかった。	・防災ノートやマイタイムラインの活用を推進する必要がある。
特別活動・部活動の充実	①通級指導に関する指導体制の確立 ・関係する生徒、保護者への丁寧な説明と対応	【○】 ・通級指導を実施し、指導体制を確立することができた。	・全教職員の理解のもと、継続し充実させる必要がある。
	②ボランティア活動や地域活動の推進	【○】 ・「人間と社会」の授業において、地域活動を実施した。	・生徒の社会貢献意識を高める指導を計画的に実施する必要がある
	③積極的な部活動紹介による関心の醸成と加入率向上	【○】 ・部活動に積極的に取り組んでいる生徒増加し、大会等で好成績を収めることができた生徒も現れた。	・年度当初の部活動紹介を充実させ、部活動の活性化による健全育成を図る必要がある。
	④生徒の体力向上の推進 ・東京都統一体力テストの実施と施策の活用	【△】 ・体力テストでの結果は高くなく、運動の習慣化を図ることが十分できなかった。	体力テストを確実に実施するとともに、体育の授業内容を充実させ、運動を習慣化させる必要がある。
保健活動の充実	①スクールカウンセラーと担任の連携	【○】 ・カウンセラーと担任の連携は十分に図ることはできた。	・管理職、担任、カウンセラーの連携は更に工夫する必要がある。
	②特別支援委員会を中心とした特別支援教育の推進	【○】 ・通級指導を含め特別支援教育を推進することができた。	・特別支援委員会の機能が継続できる体制づくり等が必要である。
募集・広報活動の充実	①学校説明会への積極参加 ・合同説明会、中学訪問、体験入学等に参加	【○】 ・中学校訪問を2回実施し、日曜日の学校説明会の実施など積極的に広報活動に取り組むことができた。	・中学校生徒・保護者に対して、本校の特徴の理解促進を図る工夫が必要である。

活動目標	本年度（令和4年度）の主な方策	取組結果(○：達成、△：一部達成、×：未達成)	次年度への取組課題
募集・広報活動の充実	②学校紹介に関する説明用動画等の作成 ・施設・設備の魅力、生徒の活躍等の紹介	【○】 ・動画を作成し、や外部機関との連携による広報活動は実施できた。	・魅力ある教育活動を広報できるよう更に工夫する必要がある
	③ホームページの活用 ・生徒の活躍、施設・設備の魅力、トピックス等の紹介 ・ホームページ更新の促進、企業向け来校案内の充実	【○】 ・学校見学や生徒募集等に関する情報は、提供できた。 ・HPの更新回数を増やし、本校の教育活動の魅力伝えることができた。	・HPのリニューアルに伴って、本校の魅力は更に伝わるように構成や内容を工夫する必要がある。
	④来校者対応の充実 ・接客マナーの向上、来校希望者への誠実な対応	【○】 ・進路指導部中心に、企業からの来校者に対して丁寧な対応を行うことができた。	・継続する。
情報管理の徹底	①校内個人情報管理基準の運用徹底	【○】 ・研修会を通して、徹底を図ることができた。	・継続する。
学校経営・組織体制の充実	①多摩科学技術高校との日常連携の促進	【○】 ・管理職間、教務主幹教諭間での情報共有を実施することができた。	・継続する。
	②業務の効率化 (計画的に行う、ムダをなくす、整理整頓)	【○】 ・業務の効率化が図られ、教員の定時外在校時間は少ない状況である。	・更に計画的に業務の効率化を図る必要がある。
	③業務の継承とOJTを目的とした分掌内分担の実施	【△】 ・年度当初に分掌内分担を明確化することができたが、OJTを推進することは十分に取組むことができなかった。	・OJTと関連するように工夫する必要がある。
	④地域から信頼され、必要とされる学校づくり	【△】 ・今年度もコロナ禍のため、地域活動は限られ、十分な連携を図ることができなかった。	・ガイドラインに沿った実施方法を検討する必要がある。
	⑤体罰の根絶に向けた取組の推進 ・教科会及び生活指導部を中心とした体制の構築	【○】 ・研修会を通して、徹底を図ることができた。	・継続する。
	⑥働き方改革推進に向けた業務の効率化(計画的・組織的に実施) ・定時外在校時間80時間以上の職員をゼロにする。	【○】 ・週80時間以上定時外で勤務する職員は、年間で0名であった。	・主任を中心に計画的に業務の効率化を図る必要がある。
	⑦グループ給食(親校)機能の充実	【○】 ・グループ校との円滑な運営ができた。	・継続する。
	⑧経営企画室の経営参画 ・担当者業務情報連絡会や研修会を通して、進行管理を適切に行うとともに、円滑な教育活動に努める。	【○】 ・朝礼により進行管理は適切に実施したことから、遅滞なく教育活動を行うことができた。	・継続する。

(2) 令和4年度重点目標への取組と自己評価

活動目標	項目	目標値	評価
学習指導	① 全学年の進級率	95%以上	未達成 (90.9%)
	② 第1学年の進級率	85%以上	未達成 (80.0%)
進路指導	③ 企業見学会の実施回数及び会社数	1回 3社以上	達成 (1回 5社・2校)
	④ 企業訪問をした会社数	10社以上	達成 (12社)
	⑤ 進路決定した卒業生の割合	95%以上	達成 (100%)
	⑥ 資格を保有している生徒の割合	85%以上	未達成 (71.7%)
健康づくり	⑦ 未処置歯を保有している生徒の割合	50%以下	未達成 (52.5%)
	⑧ 健康講話の実施回数	2回以上	未達成 (1回)
募集・広報活動の充実	⑨ 学校広報活動の充実 ・外部学校説明会への参加 ・案内パンフの更新 ・ホームページの活用		一部達成 計画通りに参加できなかった更新 更新回数(272回)
学校経営	⑩ 事故のない運営(重大事故の件数)	0件	達成 (0件)
	⑪ 服務に関する研修会の実施回数	3回以上	達成 (3回)
	⑫ 人権教育・教育相談・特別支援教育等に関する研修会の実施回数	2回以上	達成 (2回)